

## 第2回和光市公共施設マネジメント実行計画検討委員会

### 会議要旨

開催日	令和2年2月18日(火) 午後2時00分～午後4時00分
開催場所	和光市役所3階 庁議室
出席者	中川委員長、松宮副委員長、矢部委員、玉川委員、牧委員、稲葉委員、橋本委員
欠席者	なし
事務局	白川課長、岡田主幹、森田統括主査、村山統括主査、清水主任、酒井主査
次第	1 開会 2 議事 (1) 和光市小中学校個別施設計画について (2) 市の現状と取組状況について (3) 質疑 3 今後の方向性について 4 閉会
傍聴者	3人、他和光市職員3人

<b>1 開会</b>	
事務局	○配布資料の確認 ○会議の公開について ・ 市民参加条例第12条第4項に基づき、公開とし、傍聴席を設けている。 ・ 会議録は同条第6項の規定により公開する。
<b>2 議事</b>	
事務局	○ <b>議事に関する説明</b> (1) 和光市小中学校個別施設計画について (2) 市の現状と取組状況について
	● <b>質疑応答</b>
矢部委員	○ <b>和光市小中学校個別施設計画についての質疑</b> 8頁のマトリックスの縦軸の児童数についてだが、現在の児童数ではなく、これから先、例えば令和3年度を境にした児童数の増減で設定した方が良い。6頁の小学校児童数の推計を見る限り、第五小学校、下新倉小学校等が令和3年度以降はピークアウトしている。数年先に児童数が減少する学校より、増加傾向にある学校に対して優先的に投資するといった議論を行いやすくなる。

中川委員長	<p>個別施設計画自体は他部署が作成している計画なので、修正はできないと思うが、今後40年間の計画策定にあたり、今後4年先までの児童数推計を基に行っていること、および既存の学校の存続を前提にしていることは、おかしいのではないか。</p> <p>改築した場合、建物は50年間そのままのキャパシティで残るので、40年後にはオーバースペックになる学校が出てくるのではないかと予測される。</p> <p>小学校区別に余剰床が発生することを見越して、個別施設計画を検討する必要がある。余剰床の発生する施設は複合化の検討を図り、令和6年よりも長い先行きのスパンで施設計画を立てるのが望ましい。</p>
事務局	<p>小中学校個別施設計画は、現状の建物の長寿命化の可否を判断したものである。今後はどの施設とどの施設を複合化するのか、政策的なことも加味していかに建替えるかの検討が必要なので、今後変わりうる計画であると考えていただきたい。</p>
事務局	<p>令和27年までの和光市人口推計の説明を行った。(第五次総合振興計画で開示予定)</p>
松宮副委員長	<p>減少傾向になっている黄色いグラフは第四小学校か？</p>
事務局	<p>はい。児童数の減少が想定されるのは第四小と下新倉小学校区で、他の学区はほぼ横ばいの状況と出ている。</p> <p>総人口は、北原小学校区は大幅増加、白子、新倉、第三小学校区は緩やかに増加、第四小学校区は減少、その他はほぼ横ばいの予測が立っている。</p>
中川委員長	<p>改築すべきキャパシティは判明するのか？</p>
事務局	<p>現状の計画では加味していない。</p>
松宮副委員長	<p>改築を複数回実施する学校があるが、人口増減に対応したものか？</p>
事務局	<p>築年数の異なる複数の棟で構成されているため、複数回になっている。</p>
玉川委員	<p><b>〇市の現状と取組状況についての質疑</b></p> <p>6頁のエリアの構成の中に、254パイパス、新産業・物流ゾーンとあるが、今の段階で取組みできているのか？</p> <p>また、交通のスライドに記載されているEVステーションなどの整備状況はどうなっているか？</p>
事務局	<p>物流拠点の整備は概ね終わった状況であり、EVステーションは市役所にだけ整備がしてある状況である。</p>
橋本委員	<p>小中学校個別施設計画は、教育委員会所管の施設を現状維持していくためのものであって、市としてはさらに福祉サービスや施設の集約も考慮していかなければならず、複合化が必要になると考えている。</p> <p>小学校区は住民の徒歩圏内にとらえており、福祉の計画でも同様の区域で計画を進めている。</p> <p>それに加えて施設が南エリアに集中しているという適正配置の問題があり、これから10、20年先どうするか検討していく必要がある。</p>

松宮副委員長	<p><b>○市の現状と取組状況「MaaS」についての質疑</b></p> <p>30 頁の MaaS について、どこかと関わりを持ち始めているか。 また、外環上部利活用の内容でもっと具体化したものはあるか？</p>
事務局	<p>人の移動とサービスがやって来るという 2 点で自治体が関わるべきで、まずは人の移動の検討があり、サービスの移動は少し先の未来の話になる。</p> <p>外環上部については、駅から 300m の距離にあり、どう活用できるか検討している段階である。まだ民間の取組みとはリンクしていないが、民間利用をいかに促進するかという観点で検討を行っている。</p> <p>加えて、昨年度の立体道路制度の変更により既存道路への活用の幅が広がったため、有効的に活用していきたい。</p>
中川委員長	<p>マネジメント実行計画は直近の話であり、駅の再開発は順調に進めば、第 2 次の計画期間内に行われることになる。外環上部とそれを利用した MaaS のスケジュール感はどうなっているか？</p>
事務局	<p>今年度は調査期間、今後は区分地上権の購入の交渉を行い、その後に民間との調整を考えているので、最短でも 5 年程度はかかると見込んでいる。</p>
矢部委員	<p>例えば、外環側道に BRT (バス高速輸送システム) 等が来ると、定時性の高い公共手段となる。ジャストタイムで回遊性の高い公共交通があれば、市の南北に背骨が通ることになる。そのため物理的な適正配置ができなくても、定時性のある移動手段と公共施設マネジメントの考えをリンクさせるのも良い。交通と公共施設は平行で検討していくのが良いと思う。</p>
事務局	<p>なぜ公共交通をここに入れているかという、まさに委員ご指摘の通りである。これからは、財政的な困難性を乗り越えていくためにも、民間投資をいかにうまく呼び込めるかを肝と考えている。</p> <p>学校の建替に関しても、市街地に近いところは民間の力を活用できないかという PPP の観点をぜひ取り入れていきたい。</p>
<p><b>3 今後の方向性</b></p>	
事務局	<p>本日いただいた意見をもとに、事務局で第 2 次和光市公共施設マネジメント実行計画の骨子を作成し、次回会議で提示する予定です。</p>
中川委員長	<p>今日は、第 2 次和光市公共施設マネジメント実行計画の方向性について、皆さんの意見を広く伺いたい。</p>
<p><b>●意見提議</b></p>	
稲葉委員	<p><b>○施設の多機能化についての意見</b></p> <p>施設の多機能化を行う場合にどんな機能を入れていこうかという検討はなされているか。</p>
橋本委員	<p>下新倉小学校が複合化されている施設で、図書館、学童クラブ、児童センター等の地域利用施設が併設されている。</p>
稲葉委員	<p>建替えにあたってどんなふう具体的に変わっていくのか、サマリーがあるか。学区ごとに、ここには何が足りないからこうなると良い、みたいなことが整理されていると、市民は分かり易い。</p>

矢部委員	<p>先ほど述べた意見と矛盾があるのだが、学校の機能に減災防災、同心円状に何があるかということは無視できない。交通インフラをベースとした施設配置とすれば、物理的な配置は関係がなくなる。</p> <p>南側に施設が集中しているが、人口とのアンバランス、どういう議論があっ てこうアウトプットしたみたいなのがはっきりすると良い。</p>
中川委員長	<p>一般的に小学校単位で考えたとき、和光市は極端な人口減はないが、通常 の市町村だと余剰床が生まれてくる。一般的な作業ベースで小学校区を単 位とした場合の余剰床・児童数・公共施設の余命・利用率などを含めた検討 が必要かもしれない。</p> <p>しかし、MaaS を考えると、それは必ずしも必要ではないことになる。外環 や MaaS の時間的な要素などもあり検討事項がたくさんある。</p> <p>まずは小学校区で整理する。それに開発、MaaS をプラスするのがいいの ではないか。最初から全部を考えると複雑になる。</p>
玉川委員	<p>学区ごとに均質化するのは難しい。民間の投資を考えると、ブロックごとの 特色があってもいいのではないかと。ただし、それをどう繋ぐのか、駅を中心と するか、もう少し全体的に考えるのかなど、移動手段を構築するのがポイント かもしれない。</p>
松宮副委員長	<p>均質化しない、というのも一つの手だと思う。例えば地域に健康診断等の サービスが必要な場合、箱物を作るのではなく、検診車を活用する。施設を 複合化する際に、多目的室にサービスを運べるようにすれば、それぞれの機 能を持った諸室が全部は必要ではなくなるかもしれない。</p>
玉川委員	<p>高齢者や身障者等が快適に住むことができるようにするために、そういう機 能をミニマムに持っておくのもよい。その軽重づけが必要になってくる。</p>
松宮副委員長	<p>そのスペースは空地でも何でもいいのかもしれない。</p>
牧委員	<p><b>○白子小学校についての質疑</b></p> <p>白子小学校は改築が可能なのか。以前、既存の体育館を解体したら、今後は 消防法により新築ができないということを聞いている。改築の場合、学校と してどうになってしまうのか心配である。</p>
松宮副委員長	<p>下新倉小の新設により、白子小の児童数が減ったと説明があった。使用し ていないプレハブ校舎を解体すれば、体育館は建替えができるように見受け られる。</p>
牧委員	<p>児童数は一時減ったが、また増えている。プレハブ校舎も解体予定だと聞 いていたが、予算がついていない状況になっている。</p>
事務局	<p>検討すべき要素は他にも多くあると思うので、現段階ではなく、設計段階で 考えたい。</p>
牧委員	<p>児童数も重要で、教室数で建物の大きさが決まってくると思う。</p>
中川委員長	<p>小学校の機能がその場所に必要であれば、何らかの工夫をするということ になるだろう。</p>
事務局	<p>どうすればできるかを考えていくべきで、もう少し具体的な時期に検討しな いと、答えを出すことは難しい。</p>

	<b>○新倉PAについての質疑</b>
矢部委員	PAの構想でどのぐらい稼ぐつもりか。周辺の住民がSAを利用できるとか、SAに駐車して市内に移動できるのか、商業エリアと人の行き来などが分かると良い。地域のキャラクターが違うので、北側エリアを市に訪れた人にお金を落としてもらう場所のように位置づけしてもよいのではないか。
事務局	市だけで意思決定ができるものではなく、現段階では勉強会というレベルと聞いている。
	<b>○財源の確保についての提案</b>
矢部委員	公共施設マネジメントを考える上で、使えるお金を市民の税金以外に、たとえば目的税化などしてMaaSのサービスに使うことができれば、他にはない取り組みで面白いと思う。
松宮副委員長	財源の確保としては、大江戸線の延伸周辺の地価が上昇し、固定資産税収の増加が見込まれる。人口の増加に伴ってどのような街づくりが必要か、その使い道はその地域のために使えるといい。そういったことを前倒しで考えておくのもいい。 開発により住宅地をどうしていくかということと、まちづくり像をどうするかということがセットになる。その次にどういう公共施設が必要かとなってくると思う。
事務局	どこまで反映できるか分からないが、マクロとミクロの視点を整理していきたい。例えば財政的なことは市全体のことになるので少し難しいが、プロジェクトごとのミクロの視点は反映できると思う。
矢部委員	事実として、投資したときに効果が出るかがマネジメントの手法である。 施設更新は大きな校舎から着手した方が良く、等の効果を図る基準があるとよく、緊急性とはもう一つ別のフィルターをかける。無尽蔵な予算で行うわけではないので、効果から算出した優先順位をつける。 予算制約がある中での適正配分なので、効果が高いものから配分するのがミクロ経済の原則だし、分かり易いと思う。
中川委員長	効果とは例えばどのようなものか。
矢部委員	例えば、提供できる数が多ければ多いほど効果が大きい。空間として教室が新しくなり安全が図られるとなった場合、より多くの人々が享受できるということが挙げられる。一つの基準だけでは決められないと思うが、最後は順番付けをしなければいけない。今は時間軸だけで古い順からの施設更新で考えられているが、古さが同等の場合はどう優劣をつけるのか。それが公共施設マネジメントで実行すべきことだと思う。
	<b>○二次計画で扱う題材について</b>
中川委員長	全部を反映するのは難しいと思うが、第2次計画でかけられる費用は潤沢ではない。そういった中で、どういう題材を第2次計画の中で扱おうと思っているか？

事務局	小中学校個別施設計画ができた段階で第2次期間内に実施する施設の数 は少ない。公共施設に投資できる額が少ない。この事実を踏まえて、これか ら今日の議論を踏まえて考えていく。
○次回に向けて考えてほしいこと	
中川委員長	公共施設の大部分を占める小学校の今の状況と教育サイドの計画が分か った。一方で40年先の児童数推計は判明している。再開発計画、外環道、 MaaS、大江戸線延伸など様々なプロジェクトがある。 この委員会では令和7年までの計画を議論する場である。長期的な振舞 い方と令和7年までにやりたいことを分類して整理した方がいい。 長期を見据えた上で、短期の小学校区ごとでの施設の整理やMaaS等 を含めた別の視点を加えた検討を整理していただき、お金がない中で、令和7 年までにこういうことをやりたい。というようなことを次回、示してもらいたい と思う。
中川委員長	抽象的になりましたが、ほかに事務局へのリクエストはありますか？
稲葉委員	マクロの話をする、前回の委員会で、行政としてどのような街にしたいか と尋ねたが、その理由は、街づくりのイメージを共有できた方が確実な計画 ができると感じたからである。 今回ご提示いただいた都市計画マスタープランなどの概念、「安心・安全・ 快適・便利」はどこ自治体でも判で押したように記載されている内容であ る。当該エリアで育まれてきたまちの歴史の時間軸・文化軸など、いわゆる地 域らしさの概念がほとんど入っていない。…少し検索したところ、桑名市・三 島市は具体的にそれらの文言が明記されていました。 和光市の魅力を育んでいくにあたっては、現状の施設、景観、そしてそこ での営みなどを包括的に資産ととらえ、歴史・エリアと関連させて改変してい く視点を持つことは不可欠に近い重要な事だと思う。 私達は今、物(モノ)の更新ではなく和光市の歴史を作ろうとしている。歴 史、文化資産をしっかりと引き継ぎ育てていくといった視点が入るとより魅力的 な街になると思うので、それらの「今まで」⇒「今」をふまえた時間軸、ベクトル 概念を入れて「これから」を作っていくとより確からしいものができると思う。
中川委員長	事務局にて、本日の意見を踏まえて方針を次回示してください。
4 次回開催予定の連絡	
事務局	次回予定は5月中旬以降になる予定であり、日程調整は新年度に入っ てから行う。 本日の会議録を作成しますのでご確認の上、修正等がありましたら事務局 へ連絡ください。修正後にホームページで公開する。
5 閉会	